

いわさきちひろの原画を 長野県塩尻市で発見！



II-3.塩尻で発見されたパステル画 1970年頃

2012年秋、長野県塩尻市教育委員会により、1971年にちひろが寄贈したパステル画1点が発見されました。作品は、塩尻市保健福祉センターの事務室に掛けられていたものです。1971年当時、同所には、塩尻市児童館(平成11年に移築)が建てられていました。ちひろと児童館の関係や寄贈当時の経緯は不明ですが、今後のいわさきちひろ研究のための貴重な発見となりました。今春、「ちひろの軌跡」展にて、本作品を初公開します。



額の裏には、「贈呈 塩尻市児童館 一九七一年四月十六日 いわさきちひろ」と記されています。

3月20日(水・祝) 入館無料感謝デー

日頃の感謝を込めて、入館無料でお楽しみいただけます。ワンドリンクサービスや、おはなしの会など、楽しいイベントも開催します。

時間=9:00～17:00

会場=安曇野ちひろ美術館 全館

料金=無料(入館料を含む)

※イベント内容の詳細については、決まり次第、ホームページ上でお知らせします。
<http://www.chihiro.jp/azumino/event/>

4月19日(金) 開館記念日

安曇野ちひろ美術館は、2013年に開館16周年を迎えます。この日ご来館のみなさまに、ささやかなプレゼントを差し上げます。

時間=9:00～17:00



アヒルとクマとあかちゃん 1971年

●いわさきちひろ記念事業団が、公益財団法人に

安曇野ちひろ美術館、ちひろ美術館・東京を運営する財団法人いわさきちひろ記念事業団は、2013年4月1日より公益財団法人となります。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。



●おはなしの会

絵本の読み聞かせや素話を、親子でお楽しみいただけます。

日時=毎月第2・4土曜日 11:00～11:30

会場=安曇野ちひろ美術館 絵本の部屋

料金=無料(入館料のみ) 対象:参加自由

(画像)撮影:橋本裕貴



<企画展>

手から手へ展

—絵本作家から子どもたちへ 3.11後のメッセージ—

3月1日(金)～5月7日(火)

いまこのとき、私たちアーティストができることのひとつ。
私たちの発するメッセージがみなさんのところに届き、
それらが人々の手から手へと伝わっていくことを願います。

降矢奈々(絵本作家・「手から手へ展」主催者代表)

「手から手へ展」は、日本の絵本作家たちが中心となり、「3.11後の世界から私たちの未来を考える」というテーマで世界の仲間たちに呼びかけて作品を募った展覧会です。震災から1年後の2012年3月、イタリアのボローニャを皮切りに、1年間ヨーロッパ諸国を巡回し、世界の人々に想いを届けてきました。

2013年、さらに多くの絵本作家が参加し、日本で開催されることになりました。7カ国110名の作家たちが、未来を生きる子どもたちへの想いを込めて描いた作品をご覧ください。



I-1, 降矢奈々 子どもたちへの遺産 2012年

展覧会名：手から手へ展 —絵本作家から子どもたちへ 3.11後のメッセージ—

会期：2013年3月1日(金)～5月7日(火)
○開館時間＝9：00～17：00 (GWは～18：00)
○休館日＝第2・4水曜日 (GWは無休)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4

料金：大人800円／高校生以下無料
※団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引き ※障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料 ※視覚障害のある方は無料

主催：手から手へ展実行委員会、ちひろ美術館

共催：(社)日本国際児童図書評議会(JBBY)、中日新聞社

後援：絵本学会、こどもの本WAVE、(公社)全国学校図書館協議会、日本児童図書出版協会、(社)日本図書館協会、スロバキア共和国大使館、スロバキア郵政

協力：Pinpoint Gallery、THE14th MOON、Gallery Vie、セルフソウアートギャラリー、ビリケンギャラリー、メリーゴーランド(京都)、ブックギャラリーポポタム、ウレシカ、シーモアグラス

協賛：あすなろ書房、岩崎書店、岩波書店、偕成社、金の星社、くもん出版、グランまま社、クレヨンハウス、佼成出版社、講談社、朔北社、集英社、小学館、鈴木出版、セーラー出版、大日本図書、チャイルド本社、童心社、西村書店、のら書店、BL出版、福音館書店、フレーベル館、文芸堂、ポプラ社、ほるぷ出版、光村教育図書、共同印刷、愛企画センター、絵本の家、ギャラリービブリオ、講談社フェーマススクールズ、こどもの本専門店エルマー、こどもの本屋ピピン、日本文化センター・Amsterdam



I-2, 長谷川義史 もう一度この町で 2012年

展覧会のみどころ：絵本作家たちが中心となって企画した展覧会

3.11後、スロバキアに住む絵本作家・降矢奈々の呼びかけから、日本の絵本作家たちが中心となって世界の仲間へと広がった展覧会です。日本、スロバキア、オランダをはじめ、7カ国110名の絵本作家が参加しています。

ヨーロッパ巡回展から大幅に作品を増やし、日本で初公開

2012年3月にイタリアのボローニャで最初の展覧会が開催されてから、ブラティスラバ、ワルシャワ、アムステルダム、コペンハーゲンへと巡回してきた展覧会に、日本の作家53人が加わって国内を巡回します。本展は日本巡回の皮切りとなる展覧会です。

出展作品数：約150点

出展作家：あおきひろえ、青山友美、あべ弘士、荒井良二、アンヴィル奈宝子、飯野和好、石井聖岳、石田菜々子、市居みか、伊藤秀男、いとうひろし、いまいあやの、いまきみち、いわむらかずお、植田真、おーなり由子、大畑いくの、岡田千晶、おくはらゆめ、梶浦聖子、片山健、かとうまふみ、きたむらさとし、きたやまようこ、久保貴之、黒田征太郎、小柏香、児島なおみ、小林敏也、こみねゆら、酒井駒子、坂田季代子、ささめやゆき、篠原晴美、スズキコージ、そのだえり、瀧根進史、武田美穂、高島純、高島那生、田島征三、田島征彦、たしろちさと、田畑精一、たなか鮎子、田中清代、垂石真子、たんじあきこ、tupera tupera (亀山達也・中川敦子)、出久根育、どいかや、洞野志保、長野ヒデ子、西村繁男、のだよして、長谷川義史、はたこうしろう、浜田桂子、早川純子、ふしはらのじて、藤本将、降矢奈々、降矢洋子、堀川理万子、松成真理子、松本春野、三浦太郎、宮沢ゆかり、村上康成、八木民子、山内ふじ江、山田真奈未、山福朱実、山本孝、和歌山静子、渡辺美智雄、渡邊智子、内田麟太郎、木坂涼、富安陽子 (日本)

イゴル・ピアチカ、カタリーナ・スラニンコヴァー、ジョルト・ルカーチ、ダーヴィト・ウルシニ、ノエミ・ラーツォヴァー、ペテル・ウフナール、ペテル・ソイカ、マルティナ・マトロヴィチョヴァー、マレク・オルマンジーク、ミロスラウ・レギトコ、ユライ・マルチシュカ、ユーリア・ピアチコヴァー、リュボスラウ・パリヨ (スロバキア)

ヴァレリア・ヴァレンツァ、ヴィットリア・ファッキーニ、ダヴィデ・ロンガレッティ & 田隅真由子、フィリップ・ジョルダノ (イタリア)

ミハエル・ゾーヴァ (ドイツ)

クラス・フェルプランケ、トム・スコーンオーヘ、ヒド・ファン・ヘネヒテン (ベルギー)

アレックス・デ・ウォルフ、イヴォンヌ・ヤハテンベルフ、ハリエット・ヴァン・レーク、ヒッテ・スパー、ヨーケ・ファン・レーウェン、ワウター・ヴァン・レーク (オランダ)

アーサー・ピナード (アメリカ)

関連イベント：出展作家によるワークショップI きてきての木

“きてきての木”に住んでいる、不思議な生き物を、自分の手を使ってつくりまします。さまざまな素材を曲げたりつなげたり、色とりどりに飾りまします。できあがった生き物を手に、館内を散歩まします。

日時：3月31日(日) 10:00～11:30

会場：安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

講師：早川純子、坂田季代子、山福朱実、そのだえり ほか

対象：はさみが使える人 ※幼児は保護者と一緒にご参加ください。

定員：30名(要事前申し込み)

料金：無料(入館料のみ)

申込：要事前予約(ちひろ美術館HP、TEL.0261-62-0772で受付中)

※同日午後にも来館者が参加できるワークショップも開催(予約不要)。

出展作家によるワークショップII HANDMADE(手で作る)

人間の手、動物の手……、その形はさまざま。オランダの絵本作家アレックス・デ・ウォルフと、いろいろな手の話や、自分の手で村を水害から守った少年の話を楽しんだあと、「手」を生かしたポップアップカードをつくりまします。

日時：4月14日(日) ①10:00～12:00 ②14:00～16:00

会場：安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

講師：アレックス・デ・ウォルフ(オランダの絵本作家)

定員：各回30名(要事前申し込み)

料金：無料(入館料のみ)

申込：要事前予約(ちひろ美術館HP、TEL.0261-62-0772で受付中)

ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展覧会の見どころなどをお話まします。

日時：毎月第2・4土曜日 14:30～15:00

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4 料金：無料(入館料のみ) 申込：参加自由

関連展示：2013年5月22日(水)～8月4日(日) ちひろ美術館・東京
 2013年8月24日(土)～10月6日(日) 平田本陣記念館(島根)
 2014年3月1日(土)～5月11日(日) 京都国際マンガミュージアム(京都) …ほか巡回予定

関連書籍：「手から手へ ―絵本作家から子どもたちへ 3.11後のメッセージ―」展覧会図録(手から手へ展実行委員会) 2013年3月1日発行予定

公式サイト：「手から手へ展」公式サイト <http://handtohand311.org>

図版について：本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



I-3, そのだえり
 Sleeping Polar Bears 2011年



I-4, アレックス・デ・ウォルフ(オランダ)
 きれいな未来のために 2012年



I-5, スズキコージ
 ドラゴンを退治する聖ゲオルギオス 2011年



I-6, 荒井良二
 ニュー原始くん 2012年



I-7, クラース・フェルブランケ(ベルギー)
 笑顔は闇の中の光! 2011年



ちひろ美術館コレクション
読みつがれる絵本 語りつがれる物語

3月1日(金)～5月7日(火)



Ⅲ-1, エリック・バトゥー(フランス)
『もしもゆきがあかだったら』(フレール館)より 2002年



Ⅲ-2, ドウシャン・カーライ(スロバキア)
『稲妻—または願いごとの秘密』より 1989年

親から子へ、子から孫へ……、
世代を超えて読みつがれる絵本、語りつがれる物語の世界。
本展では、ちひろ美術館コレクションより、
エフゲーニー・ラチョフ(ロシア)やエリック・バトゥー(フランス)など、
世界各国の画家が、昔話や絵本のために描いた作品を中心に
紹介します。

展覧会名：ちひろ美術館コレクション 読みつがれる絵本 語りつがれる物語

会期：2013年3月1日(金)～5月7日(火)

○開館時間=9:00～17:00(GWは～18:00) ○休館日=第2・4水曜日(GWは無休)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室3

料金：大人800円/高校生以下無料

※団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引き

※障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料

※視覚障害のある方は無料

主催：安曇野ちひろ美術館

出展作品数：約20点

- 主な出展作品：1) エフゲーニー・ラチョフ(ロシア) 『つとさぎ』より ロシア民話 1965年
2) ボロルマー・バーサンスレン(モンゴル) 『チェスをする少年』より 2004年
3) ビネッテ・シュレーダー(ドイツ) 『こんにちはトラクター・マクスくん』(岩波書店)より 1969年
4) シン・ドンジュン(韓国) 『地下鉄は走ってくる』より 2003年
5) エリック・カール(アメリカ) かまきり 1987年

図版について：本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用
作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。



ちひろの軌跡

3月1日(金)～5月7日(火)

大人というものはどんなに苦勞が多くても、
自分のほうから人を愛していける人間に
なることなんだと思います。

いわさきちひろ

絵本画家として活躍したいわさきちひろ。その活動の裏には、家族を始め、編集者や画家仲間など、画業を支えた多くの人々との出会いがありました。晩年のちひろが残した「大人というものはどんなに苦勞が多くても、自分のほうから人を愛していける人間になることなんだと思います」という言葉からは、多くの人々との出会いを通して画家としてはもちろん、人間としても充実したときを迎えたちひろの姿がうかがえます。

本展では、絵本『あめのひのおるすばん』(至光社)、『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)などの作品を、画業を支えた多くの人々の言葉とともに展示し、ちひろの人生の軌跡を紹介します。



II-1. くちもとに指をそえた少女
『あめのひのおるすばん』(至光社)より
1968年



II-2. 母の日 1972年

.....
展覧会名：ちひろの軌跡
.....

会期：2013年3月1日(金)～5月7日(火)

○開館時間＝9：00～17：00 (GWは～18：00)

○休館日＝第2・4水曜日 (GWは無休)

.....
会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1・2
.....

料金：大人800円／高校生以下無料

※団体 (有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引き ※障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料 ※視覚障害のある方は無料

.....
主催：安曇野ちひろ美術館
.....

展覧会の見どころ：ちひろを支えた人々 ―画家として、母として、妻として

本展では、初期童画から後期の絵本作品までを展示し、画家・丸木俊^{まるきとし}、至光社の編集者・武市八十雄^{たけいちやそお}、長男・松本猛^{まつもとたけし}などちひろを支えた多くの人々の言葉と、関係を通して、画業と人生の軌跡を紹介します。

昨年、塩尻市で発見されたちひろのパステル画を本展初公開！

1971年に、ちひろが塩尻市児童館(当時)へ寄贈したパステル画が、昨年、塩尻市で発見されました。表現の飛躍を求めて描いたパステル画約100点のうちの貴重な1点であるこの作品を、本展で初公開します。



II-3, 塩尻で発見されたパステル画
1970年頃

出展作品数：約100点

主な出展作品：手紙をポストに入れる男の子 1956年、塩尻で発見されたパステル画 1970年頃、眠る息子 猛 1951年、長男・猛 1951年7月5日、『わたしがちいさかったときに』(童心社)、『あめのひのおるすばん』『となりにきたこ』(以上、至光社)、『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店) ほか

関連イベント：ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展覧会の見どころなどをお話します。

日時：毎月第2・4土曜日 14:00～14:30

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1

料金：無料(入館料のみ)

申込：参加自由

図版について：本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※掲載紙/誌をご送付ください。



II-4, 手紙をポストに入れる男の子 1956年



II-5, このあしたん 1969年



II-6, ひなげしと子ども 1969年



II-7, 爆撃機 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年